

埼玉シニアクラブ介護学習会を開催 高齢化時代、他人ごとではない正しい対応策を知っておこう

林 久詔通信員

埼玉シニアクラブは初めての政策制度学習会として、6月12日、介護研修会を開催した。講師にはNPO法人暮らしネット、えんの小島美里代表理事をお迎えした。障害者、痴呆高齢者、一人暮らし高齢者施設の運営や訪問支援を実践する経験を踏まえた話で「介護は全ての人が必ず関わる問題であることを知ってほしい」と提起された。

家族が介護制度や施設の知識を持つこと、そのためには常に興味を持つこと。家族だけで抱え込まず家族だけでは絶対に解決できない問題であることを知ってほしい。そして早めの対応が必要であること、事前手続きと入居することに時間差があってもよい。地域の包括センターに行ってみてください。どんなことができるのか、どんな制度があるのか、家族、夫婦で情報を共有してほしい。介護制度の利用も多種あり必要になってからでは正しい判断や選択する時間がなく、即対応することが優先してもっとよく調べればよかった。と後悔するケースが多々ある。経験者や地域の方から施設等の正しい情報を得ておくことが後悔のない対応をする一番の方法で公の機関ではどこが良いとは示唆しません。

以上の心構えや制度について教えられた。最後に介護保険が危ない、改善する必要があることを知ってください、そして声を上げてほしいと労働組合関係者に対する要請がされた。当日はシニア役員と会員、JAM北関東専従職員で22名が参加。1時間半の研修会終了後、講師を交え意見交換をしつつ食事会を行い終了。会員の皆さん是非介護問題に早くから興味を持ってください。興味を持つことで情報が入ってきます。



— 小島講師(上段)の講義を熱心に聞く参加者の皆さん —